

海外生活 エッセー

ロンドン事務所

ロンドンで第一子誕生！英国の出産事情について

(一財)自治体国際化協会ロンドン事務所 所長補佐 西田 隆章 (和歌山県派遣)

私は今年4月に妊娠中の妻とともに渡英しました。そして、妻が6月にロンドンで女の子を出産しました。

今回は、この際の経験を交えて、英国の公的病院の出産事情をご紹介します。

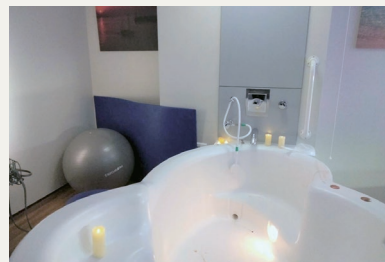
→ 妊婦検診

英国における妊婦検診には、①医師が行う検診と、②ミッドワイフ（助産師）が行う検診の2種類があります。①は、医師がエコー検査を行います。日本では妊婦検診のたびにエコー検査を行いますが、英国ではエコー検査は通常妊娠約12週目と20週目の2回しかありません。私たちは妊娠後期に渡英したため、エコー検査は妊娠34週目と37週目に2回受検しました。②は、ミッドワイフが問診と検査（妊婦の血圧測定、尿検査、体のむくみのチェック、お腹のサイズ測定、新生児の心音確認）を2週間おきに行います（妊娠後期の場合の頻度）。

→ 出産

英国は日本より病院の受け入れタイミングが遅く、10分間に3～4回の頻度の陣痛が来ないと受け入れてもらえません。入院後も出産までまだ時間を要すると判断されると、一旦帰宅を指示されることもあります。ただ出産のスタイルに関しては、自由に決められる幅が広いです。例えば、誰が立ち会うか、どこで出産するか（病院、自宅など）、どのような環境で出産するか（音楽、アロマなど）、どのように出産するか（自然分娩、水中出産など）、どのようなものを出産時に使うか（バランスボール、笑気ガス（酸素と亜酸化窒素の混合ガスで、吸引により痛みを減少させる効果がある）など）、誰がへその緒を切るか、出産後の赤ちゃんにビタミンKを注射するか（ビタミンKが不足すると血液が凝固しにくくなり出血しやすくなるため）、といった具体的なパー

スプランを妊婦が事前に考え、病院に希望を提出することができます。なお、今回は希望が叶いませんでしたが、英国では水中出産を選ぶケースが多いようです。病院にはお風呂より少し大きいくらいの中産用の温水プール施設が備え付けられており、ぬるま湯に入ることによって鎮痛効果やリラックス効果が期待でき、また生まれたての赤ちゃんを母親がすぐに抱き上げることができるといったメリットがあります。



水中出産時に使用する温水プール施設 (West Middlesex University Hospital)

→ 出産後

退院のタイミングは日本よりも早く、基本的には出産から24時間以内、帝王切開の場合でも2日程度で退院になります。これは、慢性的な人材不足やベッド数不足によるものと現地の方からお聞きしました。その代わりに、退院後は母子の健康状態確認のため、ミッドワイフが複数回にわたって自宅を訪問します。

→ 妊婦の主体性の尊重

あらゆるものについて妊婦の意思を尊重する英国の出産事情の背景には、「常に自ら決める」という主体性を尊重する英国人の考え方があるように思われます。逆に言えば、医師やミッドワイフから提案されることはなく、その分自由ですが、難しい判断を迫られることもあります。この主体性を尊重する考え方は、今後の育児にも大きく影響してきそうです。いずれにしても、今回の出産経験を通じて、日英間の主体性をめぐる考え方に大きな差があることを感じました。